

民主化闘争情報

No. 929
2015年5月27日
発行 日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

安全確立と信頼回復にむけて取り組みを進めているJR北海道であるが、JR総連・JR東労組東京地本の組織部情報によれば、運車職場の箇所長等を対象に行う予定であった「現場力向上にむけた講演会」が中止された模様だ。

安全確立と信頼回復にむけて、現場力を高めるとともに、意思統一を図るために極めて重要な講演であると思われるが、JR総連・JR東労組は、「講演は組合の抑え込み」と危機感を強めている。

JR北海道の「現場力向上にむけた講演会」が突然中止！？ 何故かJR総連・JR東労組が「組合の抑え込み」と反発

現在、JR北海道には安全管理体制の強化等のために、JR東日本から数名の社員が派遣されている。本年4月16日、現場管理、人材育成等のマネジメントをいかに遂行させるかをテーマに「現場力向上にむけた講演会」をJR北海道の運車職場の現場長等を対象に企画されたという。講演者はJR東日本東京支社の運車部の課長と同東京支社管内の運転区の現場長であったが、講演会は結果的に中止された。(JR東労組・東京地本組織部情報)

JR東日本からの出向者が講演予定であったとはいえ、JR東日本への飛び火を恐れてJR東労組が反発する様は、かつてJR東日本でおこなわれた「リーダー研修」を巡る混乱を彷彿とさせる。

JR東日本では職場の若手社員を対象に「リーダー研修」を1997年から実施していたが、研修修了者の一部がJR東労組に批判的な言動をとったことから、「リーダー研修が組織破壊の温床になっている」との理由で、翌年、JR東労組は研修の即時中止を申し入れ、会社は研修の中止を受け入れた。

今回のJR北海道での「現場力向上にむけた講演会」がどのような経緯で中止されたかは不明であるが、JR北海道の信頼回復と再生に向けて労務管理を含めた徹底的な企業風土改革が求められている。

いまだ「過激派労組」がやりたい放題！？

総合情報誌「選択(5月号)」では、「首都圏の輸送を担う世界一の巨大鉄道会社(JR東日本)は解体的出直しが迫られている」、「いまだ『過激派労組』がやりたい放題」と厳しく指摘している。

さらに、「労組問題を解決できていないのはJR東が抱える宿痼だ」「革マル系労組によって現場ばかりか経営までが侵食されていた」「来年三月には、北海道新幹線が開通し、いまだに革マル派の巣窟といわれるJR北海道と東の乗り入れが本格化する。それまでに自らの病巣を排除できなければ、JR東は同じ穴の貉となる」と指摘している。

良識あるJR総連の組合員の皆さん
民主化の完遂に向けてJR連合に結集しよう！